

2016年（平成28年） 5月13日（金曜日）

毎週（金）14:00発行

発行所 (一財)日本エネルギー経済研究所  
石油情報センター電話 (03) 3534-7411 (代)  
FAX (03) 3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌビル・カドキ11階  
ホームページ <http://oil-info.ieej.or.jp>

## ■ 概況

4/21～4/27のNYMEX・WTIは、リスク回避の姿勢が後退したことなどから値上がりし、42～45ドルで推移した。

4月28日は、ドル安の進行や米国原油生産の減少などから続伸した。6月限の終値は、前日比0.70ドル高の46.03ドルとなった。週末29日は、利益確定の動きから47ドル台を試す直前から反落した。6月限は、前日比0.11ドル安の45.92ドルで終了した。

週明け5月2日は、OPEC(石油輸出国機構)の原油生産量が増加したことなどから続落した。6月限の終値は、前週末比1.14ドル安の44.78ドルとなった。3日は、引き続き供給過剰への懸念などから値下がりした。6月限の終値は、前日比1.13ドル安の43.65ドルだった。4日は、カナダ産油地帯での森林火災の報などから反発した。6月限の終値は、前日比0.13ドル高の43.78ドルだった。5日は、カナダの火災による原油の生産減や、リビアの内戦などから反発した。6月限の終値は、前日比0.54ドル高の44.32ドルとなった。週末6日は、カナダの火災で日量100万バレル以上の生産減となっていることから続伸した。6月限は、前日比0.34ドル高の44.66ドルで終了した。

週明け9日は、カナダの森林火災の影響は一時的なものだという観測から、利益確定の動きが広まり、反落した。6月限の終値は、前週末比1.22ドル安の43.44ドルとなった。

10日は、カナダでの森林火災への懸念やナイジェリアの石油施設が武装集団に襲撃されたとの報から値上がりした。6月限の終値は、前日比1.22ドル高の44.66ドルだった。

11日は、EIA(米エネルギー情報局)の週間石油統計で、原油在庫が事前予想を覆して減少となったことから続伸した。6

月限の終値は、前日比1.57ドル高の46.23ドルだった。

アジアの指標原油である中東産ドバイ原油/東京市場(6月渡し)は、前週は40～42ドルで推移した。28日は42.90ドル、2日は43.50ドル、6日は41.60ドル、9日は42.90ドル、10日は40.80ドルと小幅な値動きが続いた。11日は欧米市場の値上がりで42.30ドルだった。

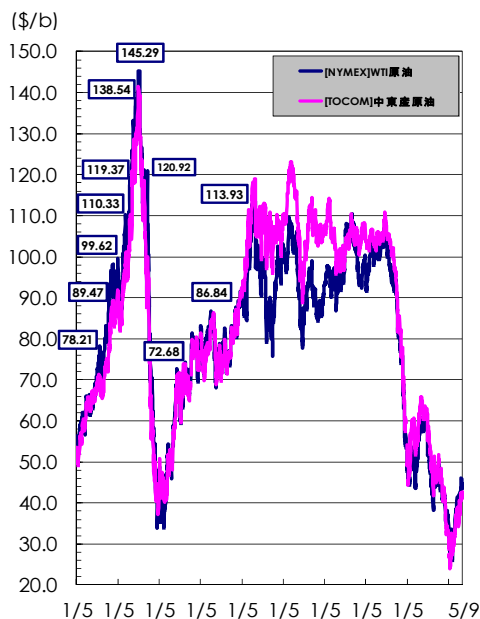
為替は、前週は109～111円台でやや円安だった。28日は109.75円、2日は106.42円、6日は107.39円、9日は107.45円で円高に転じた。10日は再び円安で108.46円、11日は、109.14円。

財務省が12日発表した貿易統計速報(旬間ベース)によると、4月中旬の原油輸入平均CIF価格は、26,134円/klとなり、前旬を744円上回った。ドル建てでは37.16ドルで前旬比1.33ドル高。為替レートは1ドル/111.81円。

主要元売会社の5月第2週に適用するガソリンと中間留分の卸価格は、据え置きから1.5円の値上げだった。原油はほぼ横ばい、為替は円高で、原油コストは小幅に値下がりした。

そのような中で、5月2日時点の小売価格は、ガソリンが0.7円値上がりの117.8円、軽油は0.4円値上がりの99.9円、灯油は0.2円値上がりの62.1円となった。また9日時点の小売価格は、ガソリンが0.2円値上がりの118.0円、軽油は横ばいの99.9円、灯油は0.1円値上がりの62.2円となった。ガソリンは9週連続の値上がり、軽油は8週振りに値上がり止まった。灯油は2週連続の値上がり。この間の原油コストは値上がり、元売りの卸価格も値上がりだった。

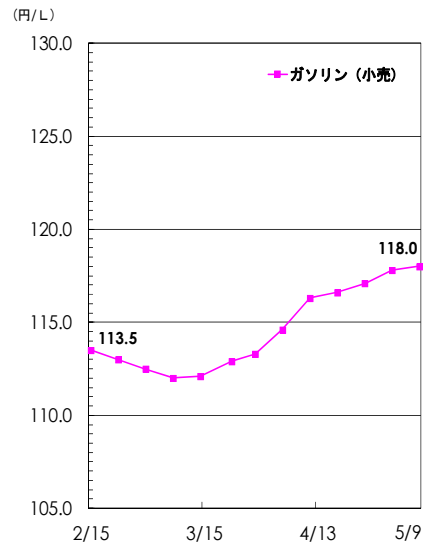
原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	5/1 ~ 5/7	3,829 ▼ -135	▲ -
	トッパー稼働率 (%)	"	90.1 ▼ -3.2	▲ -
	原油在庫量 (千kl)	5/7	15,126 ▲ 694	▲ -
価格	中東産原油(TOCOM) (\$/ bbl)	5/9	42.63 ▼ -0.55	▼ -21.5
	WTI原油(NYMEX) (\$/ bbl)	5/9	43.44 ▼ -1.34	▼ -15.8
	原油CIF単価 (\$/ bbl)	4月中旬	37.16 ▲ 1.33	▼ -19.01
	①原油CIF単価 (¥/ kl)	"	26,134 ▲ 744	▼ -16,228
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	111.81 ▲ 0.87	▲ 8.09
	外国為替TTSレート (¥/\$)	5/9	108.45 ▼ -1.03	▲ 12.28



(単位：千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比	
需給	生産	5/1 ~ 5/7	1,069 ▼-45 ▲	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	928 ▼-138 ▼	▼ -	
	輸出	"	79 ▼-25 ▲	▲ -	
	在庫	5/7	1,853 ▲ 63 ▲	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	5/6 ~ 5/9	41.3 ▲ 1.2 ▼	▼ -19.8	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	5/6 ~ 5/9	41.9 ▼-0.8 ▼	▼ -21.5
		(TOCOM/中部)	5/9	41.0 ▼-0.5 ▼	▼ -22.0
	小売 [週動向] (資工庁公表)	5/9	118.0 ▲ 0.2 ▼	▼ -23.0	

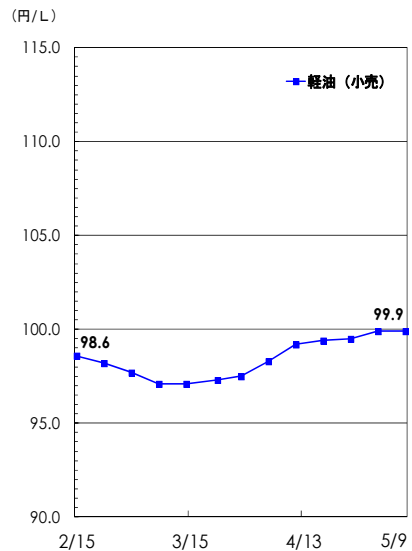
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位：千kl、円/%)

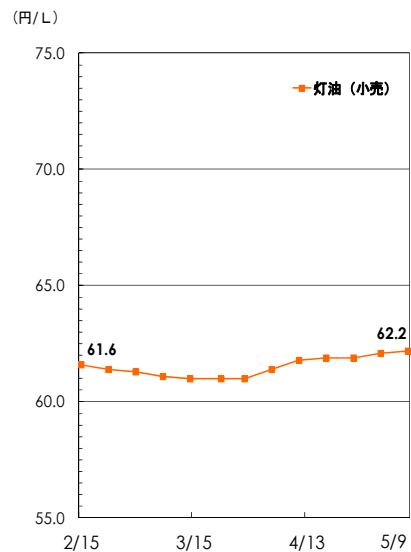
軽油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	5/1 ~ 5/7	710 ▼-129 ▼	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	393 ▼-187 ▼	▼ -	
	輸出	"	165 ▼-3 ▲	▲ -	
	在庫	5/7	1,668 ▲ 152 ▼	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	5/6 ~ 5/9	37.6 ▲ 0.7 ▼	▼ -17.8	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	5/6 ~ 5/9	37.5 ▼-0.5 ▼	▼ -21.4
		(TOCOM/中部)	5/9	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	5/9	99.9 → 0.0 ▼	▼ -20.2	

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位：千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	5/1 ~ 5/7	270 ▲ 18 ▲	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	92 ▼-127 ▲	▲ -	
	輸出	"	49 ▲ 49 ▲	▲ -	
	在庫	5/7	1,367 ▲ 129 ▼	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	5/6 ~ 5/9	36.4 ▲ 1.0 ▼	▼ -21.3	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	5/6 ~ 5/9	37.3 ▼-0.4 ▼	▼ -21.9
		(TOCOM/中部)	5/9	36.5 ▼-0.4 ▼	▼ -22.0
	小売 [週動向] (資工庁公表)	5/9	62.2 ▲ 0.1 ▼	▼ -22.3	



■ 関連情報

1 海外/原油

11日のNYMEX市場のWTI原油は、EIAの週報で、原油在庫が減少したことから続伸した。

EIAが発表した週間石油統計は、原油在庫が事前予想(70万バレル増)を覆す340万バレル減だった。またガソリン、暖房油の在庫もいずれも減少となり、供給過剰懸念が後退した。またドル安も進み、これにより原油に対する買いが進んだことから、昨年11月以来約半年振りの高値となった。6月限の終値は、前日比1.57ドル高の1バレル46.23ド

ル、7月限の終値は、前日比1.66ドル高の1バレル47.01ドルだった。

EIAによると、5月2日時点のガソリンの小売価格は全米平均で前週比7.8セント値上がりの1ガロン2.24ドル(63.5円/ℓ)となった。ディーゼルは6.8セント値上がりの2.266ドル(64.2円/ℓ)。また9日時点のガソリンの小売価格は全米平均で前週比2.0セント値下がりの1ガロン2.22ドル(63.5円/ℓ)となった。ディーゼルは0.5セント値上がりの2.271ドル(65.0円/ℓ)。ガソリンは4週振りの値下がり、ディーゼルは5週連続の値上がり。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、5月1日～7日に休止したトッパー能力は、12.1万バレル/日と先週から8.6万バレル/日の増加。(全処理能力は381.7万バレル/日)。

原油処理量は382.9万kl、前週に比べ13.5万kl減少。前年に対しては27.6万klの増加。トッパー稼働率は90.1%と前週に対しては3.2ポイントの減、前年に対しては8.6ポイントの増加となった。

生産は前週に比べて灯油のみが増産となり、その他の油種で減産となった。ガソリン/4.1%減、ジェット/25.2%減、灯油/7.0%増、軽油/15.3%減、A重油/9.6%減、C重油/22.3%減。今週のC重油の輸入は1.5万kl(前週比5.2万kl減)。軽油の輸出は16.5万kl(前週比0.3万kl減)。

出荷(販売量)は、前週比ではジェットのみが増加し、その他の油種で減少した。前年比ではジェット、灯油が増加し、A重油が横ばいで、その他の油種で減少した。連休中ながら震災の影響等もあり、ガソリンで92.8万kl(対前週12.9%減)と2週振りに100万kl台を切り、前年比でも減少となった。

ジェット9.0万kl(対前週210.3%増)、灯油9.2万kl(対前週58.0%減)、軽油39.3万kl(対前週32.2%減)、A重油12.9万kl(対前週39.7%減)、C重油20.6万kl(対前週37.2%減)。

(単位:千KL)

	今週 (5/1 ~ 5/7)	前週 (4/24 ~ 4/30)	前週比
ガソリン	928	1,066	▼ -138 (-13%)
ジェット燃料	90	29	▲ 61 (210%)
灯油	92	219	▼ -127 (-58%)
軽油	393	580	▼ -187 (-32%)
A重油	129	214	▼ -85 (-40%)
C重油	206	328	▼ -122 (-37%)
合計	1,838	2,436	▼ -598 (-25%)

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

5月7日時点の在庫は全油種が積み増しとなり、前年に対してはガソリン、ジェット、A重油が積み増し、その他の油種で取り崩しとなった。

ガソリンは185.3万kl、前週差6.3万kl増。前年に対しては13.3万kl多い。

灯油は136.7万kl、前週差12.9万kl増。前年に対しては1.4万kl少ない。

軽油は166.8万kl、前週差15.2万kl増。前年に対しては6.3万kl少ない。

A重油は84.4kl、前週差7.7万kl増。前年に対しては0.9万kl多い。

C重油は208.8万kl、前週差1.8万kl増。前年に対しては8.3万kl少ない。

(単位:千KL)

	今週 (5/7)	前週 (4/30)	前週比
ガソリン	1,853	1,790	▲ 63 (4%)
ジェット燃料	1,093	1,039	▲ 54 (5%)
灯油	1,367	1,238	▲ 129 (10%)
軽油	1,668	1,516	▲ 152 (10%)
A重油	844	767	▲ 77 (10%)
C重油	2,088	2,070	▲ 18 (1%)
合計	8,913	8,420	▲ 493 (5.9%)

### 3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

4月26日から5月9日までの原油コストは、原油価格は前半は値上がり後半は値下がり、為替レートは前半は円安後半は円高で、その結果原油コストは前半は値上り後半は値下がりで見られる。

陸上スポット価格は、ガソリン92~95円台、軽油36~37円台、灯油34~36円台でほぼ横ばいだった。海上スポット価格は、ガソリン94~95円台、軽油36~38円台、灯油36~37円台で、値上がりした灯油を除き横ばいである。また、先物価格はガソリン95~96円台、軽油37~38円台、灯油36~38円台だった。原油コスト値上がりの影響が製品スポット市場にも波及し、一般的に水準はやや上向いた。

EMGマーケティングは9日、10日以降出荷分の陸上外販スポット価格について、全油種据え置き、また12日、14日以降出荷分の陸上外販スポット価格について、ガソリンのみ1.0円引き上げる旨を通知した。

### 3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

製品スポット市況は、原油コストの値上がりの影響を受け、比較的堅調に推移した。週間のガソリン販売量は、4月25日の週は100万klを超えたが、5月2日の週は90万kl台だった。

5月第3週(5月12日~5月18日)適用の元売卸売価格に影響を与える直近の陸上スポット価格(5月6日~5月9日/千葉、川崎、中京、阪神の4地区の陸上ラック価格平均値)は、ガソリンは1.2円(前週は0.6円の値上がり)、灯油は1.0円(同0.5円)、軽油は0.7円(同0.4円)の値上がり、東京湾渡しの海上スポット平均価格は、ガソリンが0.3円(前週は1.7円の値上がり)、灯油は0.1円(同1.8円)の値下がり、軽油は0.6円(前週は0.3円の値下がり)の値上がりだった。また先物価格は、ガソリンが0.8円(前週は0.4円の値上がり)、灯油が0.4円(同1.5円)、軽油が0.5円(同1.6円)の値下がりだった。原油コストは値上がり、スポット製品価格は後半になって先物から軟調に転じた。

5月第3週の大手元売の卸価格は、横ばいから1.5円の値上がりだった。なお、元売会社は、2010年から卸価格の改定に際して、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断する方式としたが、2014年6月から、原油調達コストをより重視する方式に変更した。

(RIM)		(単位: 円/ℓ)		
[陸上ローリー4地区平均]		今週 (5/6 ~ 5/9)	前週 (4/26 ~ 5/2)	前週比
スポット価格	レギュラー	41.3	40.1	▲ 1.2
	灯油	36.4	35.4	▲ 1.0
	軽油	37.6	36.9	▲ 0.7
(TOCOM)		(単位: 円/ℓ)		
[期近物/終値][平均]		今週 (5/6 ~ 5/9)	前週 (4/26 ~ 5/2)	前週比
先物価格	レギュラー	41.9	42.7	▼ -0.8
	灯油	37.3	37.7	▼ -0.4
	軽油	37.5	38.0	▼ -0.5

※上記価格は税抜き価格

参考値 (5/6~5/9実績値)		(単位: 円/ℓ)	
油種	現物	先物	平均
ガソリン	▲ 1.2	▼ -0.8	▲ 0.2
灯油	▲ 1.0	▼ -0.4	▲ 0.3
軽油	▲ 0.7	▼ -0.5	▲ 0.1
A重油	▲ 1.2		

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

### 4 国内/製品小売価格

5月2日時点におけるSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.7円値上がりの117.8円、軽油は0.4円値上がりの99.9円、灯油は0.2円値上がりの62.1円だった。また9日時点におけるSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.2円値上がりの118.0円、軽油は横ばいの99.9円、灯油は0.1円値上がりの62.2円だった。ガソリンは9週連続の値上がり、軽油は8週振りに値上がり止まった。灯油は2週連続の値上がり。

9日の週の都道府県別の動向として、ガソリンの値上がりは33道県、横ばい6府県、値下がり8都県だった。沖縄県を除く都道府県別のガソリンの全国最安値は、埼玉県(前週比0.3

円高)の113.3円で、岡山県(同0.3円安)が113.9円で続いている。最高値は長崎県(同1.5円高)の127.0円だった。都道府県別で最も値上がりしたのは長崎県と北海道(同1.5円高)でそれぞれ127.0円と116.6円、最も値下がりしたのは愛知県と青森県(同0.8円安)のそれぞれ115.1円と114.8円だった。

原油コストは小幅に値下がりだったが、卸価格はほぼ据え置かれた。製品スポット市況もやや軟化傾向にあるが、連休中の卸価格値上がりの転嫁が遅れている可能性もあり、次週の小売価格も、小幅な値上がりで見られる。

(資工庁公表) [週動向]		(単位: 円/ℓ)			
		今週 (5/9)	前週 (5/2)	前週比	直近高値
小売価格	レギュラー	118.0	117.8	▲ 0.2	08/8/4 185.1
	灯油	62.2	62.1	▲ 0.1	08/8/11 132.1
	軽油	99.9	99.9	▶ 0.0	08/8/4 167.4

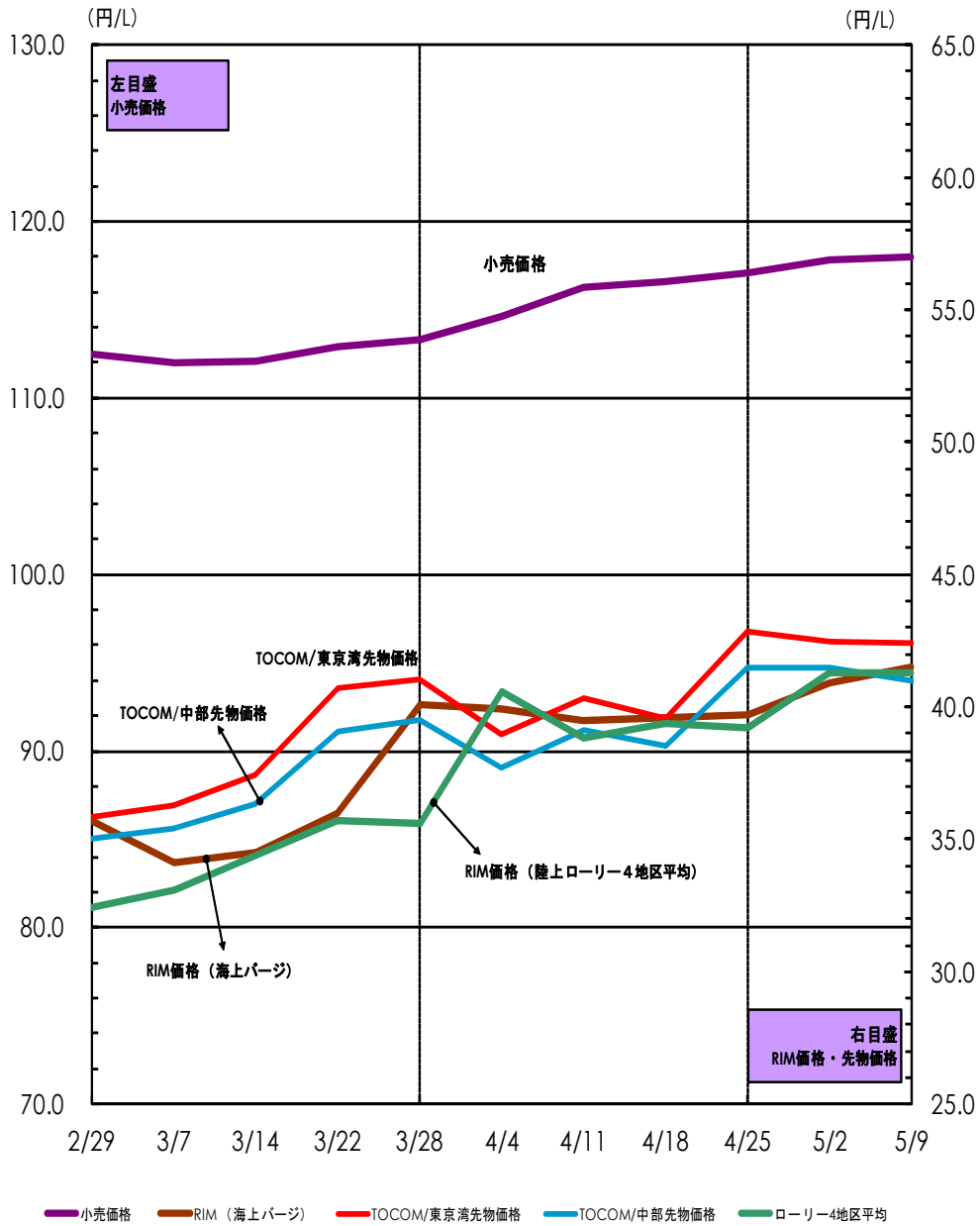
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

# ガソリン価格推移

(2016/2/29 ~ 2016/5/9)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格  
 ②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

## ■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<http://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。  
次回(2016第7号)の公表は、5/20(金)14:00です。

「セルフSS出店状況」(平成27年9月末現在)は、12月16日(水)14:00に公表しました。当センターのホームページをご覧ください。

### 本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターへドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。  
当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。  
また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

### 「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。  
当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層(特に給油所経営に携わる方々)から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

### 本レポート掲載データの出所について

#### ①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。  
「出荷」は当センターの推計。

#### ②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange : NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。  
中東産原油は、東京商品取引所(The Tokyo Commodity Exchange : TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限(翌月限)」  
中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM (Telegraphic Transfer Middle rate : 中値)を採用。  
原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値)を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

#### ③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

#### ④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社(RIM)「LORRY RACK・レポート」の東京、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用。

#### ⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾及び中部石油製品期近物・終値を採用。  
TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格(平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格(平均値)。

#### ⑥【国内製品・小売価格】〈運動向調査〉

約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における現金一般価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁-HPIに掲載)。